

水産海洋研究, 県単独事業 (マチ類の移動生態および卵稚仔補給機構調査)

上原匡人*1, 太田 格*2

本調査は, 近年, 激減したマチ類の資源回復に関する方策策定, およびそれに必要なマチ類の移動生態および初期生活史にかかわる情報を収集することを目的として実施した. 平成 26 年度は, 8 月に東大九曽根と北大九曽根において, 漁業調査船「図南丸」により底立延縄を用いて調査操業を行った. 1 航海 3 操業の調査で最も多かったのは, ツノザメ属 (87 尾) が最も多く, 次いでハナフエダイ (23 尾), ヒメダイ (22 尾), チカメキントキ (14 尾), ホシザメ (7 尾) の順で, ヒメダイを除くマチ類は, ハマダイ 5 尾, アオダイ 1 尾, オオヒメ 1 尾, キンメヒメダイ 1 尾であった. 釣獲したマチ類のうち, 活力のあったハマダイ 1 尾 (41.0 cm FL), ヒメダイ

4 尾 (写真左, 31.0-37.5 cm FL), オオヒメ 1 尾 (40.0 cm FL) にダート型タグを装着, 併せて, OTC 染色による標識を施し船上より放流した. また, ハマダイ 1 尾 (87 cm FL) とキンメヒメダイ 1 尾 (52 cm FL) については, タグ装着による魚体への影響確認と耳石輪紋の年輪としての有効性を検討するため, 飼育試験に供した. また, 北大九曽根保護区では, マチ類の卵稚仔の出現状況を調べるため, 昼夜に丸稚ネット (写真右, 口径 1.3 m, 側長 4 m) を用い, 船速約 1 ノットで 10 分間の層曳き (表層 0 m, 中層約 150 m) を行った. 現在, 採集されたサンプルのソーティングを終え, 詳細な解析を進めている.



写真 釣獲したヒメダイの養生状況 (左) と丸稚ネットによる卵稚仔採集状況 (右)

*1 E-mail : ueharmst@pref.okinawa.lg.jp , 現所属 : 水産海洋技術センター普及班本部駐在

*2 沖縄県農林水産部水産課